

平成 28 年 1 月 21 日

事業経過報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

都道府県教育委員会等名 奈良県教育委員会
 所 在 地 奈良県奈良市登大路町 30
 代 表 者 職 氏 名 教育長 吉田 育弘

平成 27 年度英語教育強化地域拠点事業における事業経過報告書を提出します。

1. 事業の実施期間

委託を受けた日 ～ 平成 28 年 3 月 31 日

2. 強化地域拠点の学校名 (学校数が多い場合は欄を追加すること)

ふりがな	ならけんりつかとりこくさいこうとうがっこう	ふりがな	ひがし ひでき
学校名	奈良県立高取国際高等学校	校長名	東 英樹
ふりがな	ならけんりつさくらいこうとうがっこう	ふりがな	たにがき やすし
学校名	奈良県立桜井高等学校	校長名	谷垣 康
ふりがな	ならしりつへいじょうにしちゅうがっこう	ふりがな	かわい よしのぶ
学校名	奈良市立平城西中学校	校長名	川井 義信
ふりがな	ならしりつつきょうしょうがっこう	ふりがな	おかだ ひでき
学校名	奈良市立右京小学校	校長名	岡田 秀樹
ふりがな	ならしりつじんぐうしょうがっこう	ふりがな	しまだ のぶひろ
学校名	奈良市立神功小学校	校長名	島田 信裕
ふりがな	ごせしりつくずちゅうがっこう	ふりがな	にしかわ きよし
学校名	御所市立葛中学校	校長名	西川 潔
ふりがな	ごせしりつくずしょうがっこう	ふりがな	にしかわ きよし
学校名	御所市立葛小学校	校長名	西川 潔
ふりがな	あすかそんりつしょうとくちゅうがっこう	ふりがな	もりもと あきひろ
学校名	明日香村立聖徳中学校	校長名	森本 昭博
ふりがな	あすかそんりつあすかしょうがっこう	ふりがな	しろもと よしのり
学校名	明日香村立明日香小学校	校長名	城本 善紀

3. 研究内容

(1) 研究開発課題

小・中・高等学校の各段階を通じて英語教育を充実させることにより、児童・生徒の英語力を向上させ、グローバル化に対応できるコミュニケーション能力を育成する。

小学校第1学年から外国語活動型で英語教育を実施し、第5、6学年では教科型による英語教育を週あたり2コマ実施する場合の教育課程、指導法、教材、評価方法等の研究開発を行う。

小学校での英語教育の教科化による教育内容の高度化に伴う中・高等学校における系統性のある教育課程の設定や、内容の高度化や着実な定着を実現するための指導法の研究開発を行う。

(2) 研究の概要

小学校については、従前より教育課程特例校として小学校第1学年から英語教育を実施してきた取組をさらに充実・発展させ、各学年の効果的なカリキュラムや教材の作成、指導の在り方、評価方法等について、学級担任や英語教育に携わる専科教員等を中心に研究を進める。

中学校では、小学校での英語教育の成果を生かしたより高度な学習内容や指導方法の研究を小学校教員との連携のもとに進める。

高等学校では、幅広い話題についてディベートを中心に、より高度な言語活動が可能な能力を育成するための指導体制を確立する。また、小・中学校で英語教育に携わる教員の支援を行う。

(3) 現状の分析と仮説等

①現状の分析と研究の目的

各小学校では、低学年から年間10コマから週1コマの頻度で外国語活動型の学習に取り組み、高学年では週1コマの教科型の学習を通して、児童は英語を用いた活動等に慣れ親しんでいる。教員は、教材や指導法、評価方法について効果的な在り方の研究を進めている。高学年ではHi, friends!に加え、「アルファベットクイズを作ろう」などの文字に親しむ教材が作成されている。低学年から中学年については、主に英語の音やリズムに親しむための教材が作成されている。

平成26年度は、英語教育強化地域拠点事業の一年目の研究として、各小・中学校は「CAN-DOリスト」の形式での学習到達目標の設定と6年間を見通した指導計画の作成を行った。御所市立葛中学校区と明日香村立聖徳中学校区では、小学校と中学校のそれぞれが到達目標を設定した。奈良市立平城西中学校区では、小学校1年生から中学校3年生までの到達目標を設定することができた。

教員のアンケートからは、「CAN-DOリストとルーブリックを設定することで、感覚的に児童・生徒のパフォーマンスを捉えるのではなく、根拠をもって指導と評価にあたることができた」などの感想が見られた。課題としては、「振り返りカードを工夫して、児童が英語で何ができるようになったのかについて児童が実感できるようにしたい」「小中連携したCAN-DOリストを作成したが、単元計画やデザインを考えると意識できていないことがあった。CAN-DOリストを意識して日々の授業を進められるよう努力したい」「単元ごとにパフォーマンス課題を設定しているが、週1コマの外国語活動では時間の確保が難しい」などがあげられた。

児童・生徒の英語力を評価するために、平成26年度は、奈良市では拠点校の中学生を対象に英語能力判定テストを、小学6年生には児童英検（ブロンズレベル）をそれぞれ実施した。同様

に、明日香村では中学2年生がGTECを、小学6年生が児童英検（シルバーレベル）を受験した。定期的に外部検定試験を利用することが効果的かつ効率的であり、小・中・高等学校において、外部検定試験の種類及び時期は異なるものの、英語力を測定するための試験の受験を続ける予定である。また、児童・生徒の外国語学習への意識の変容を把握するため、アンケート調査を年に2回実施し、教員については、自分自身の授業を振り返り、改善に生かすためのセルフチェックを年に2回実施する予定である。

今後、外部検定試験の複数年受験を続けることにより、児童・生徒の英語力を経年比較できるようにし、外国語学習の開始年齢や週当たりの授業時数などと児童・生徒の英語運用能力との関係を検証したい。

児童・生徒の外国語学習への意識の変容を把握するため、奈良市が小学6年生に実施したアンケートでは、90%以上の児童が「外国人の先生や担任の先生の話している英語の意味が分かる」「英語の文字を読んでみたい」と回答するなど、教科型で英語教育を実施するための素地が育っていると考えられる。一方、御所市が小学5・6年生を対象に行ったアンケートでは、学年が上がるにつれて「英語を書くことが好きである」「英語を使った活動に進んで取り組んでいる」などについて、肯定的な回答の値に低下が見られた。このことは、奈良市の中学1年生が2月に実施されたアンケートにおいて、「英語が楽しい」という回答が9月時点での86%から68%に低下した状況と重なる部分があると思われる。小学校外国語活動を通して、英語を好きだと感じている児童を育成できたにも関わらず、教科型で行われた授業ではそういった気持ちをもち続けさせることが難しい現状が見られる。英語を「読むこと」「書くこと」の学習は、児童・生徒にとって認知的負荷がかかるものであり、小・中学校の学習到達目標や教材の作成、指導方法といった点において、小学校と中学校が滑らかに接続できるように指導を行い、いかに英語を好きな児童・生徒を育成するかが課題である。

各学校では公開授業等を実施し、小・中・高等学校の教員の連携を図る取組が行われた。しかしながら、中学校段階では小学校での取組を十分に生かしていない面があり、高等学校については小・中学校での英語教育についての理解が十分でない面があった。小・中・高等学校間が連携し、研究授業や出前授業等を行い、各段階での英語教育について、教育課程、教材、指導の在り方、評価方法等の情報交換を密に行うことで、効果的な教材や指導法、カリキュラムを確立し、児童・生徒のコミュニケーション能力を向上させる必要がある。特に、平成27年度は、小・中・高等学校の教員が協力して、小・中・高等学校を通じた「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標の設定を行うことと、到達目標の達成状況を把握するための言語ポートフォリオをはじめとする方策の開発が必要である。

②研究仮説

小学校第1学年から早期に外国語活動型で英語教育を実施し、第5、6学年では授業時数を増やし、週あたり2コマ教科型で英語教育を実施することにより、初歩的な英語運用能力を向上させることができる。

小・中・高等学校が密に連携した英語教育を充実し、中・高等学校での英語教育への円滑な移行と教育内容の高度化等、各学校段階を俯瞰した系統性のある教育課程を編成することにより、教育目標や内容を高度化し、より着実に定着させ、児童・生徒の英語力の向上、英語によるコミ

コミュニケーション能力の育成に資することができる。

③研究成果の評価方法

外部検定試験やアンケート調査により児童・生徒の英語運用能力や英語学習に関する意識の変容を定量的に把握する。また、各拠点校及び研究協力校で実施される研究授業により教員の指導力の向上を評価する。各強化地域拠点の取組については、実践記録集や指導案集等の作成を通して研究成果を把握する。授業記録映像、「CAN-DO リスト」の形での到達目標、年間指導計画、指導案、教材などの研究の成果は、県教育委員会の学力向上支援サイト Web ページで公表する。

(4) 研究開発型 ※平成27年度新規採択件については、平成26年度は斜線を引くこと。

	開始学年及び週当たり授業時数コマ			
	第一年次 (H26)	第二年次 (H27)	第三年次 (H28)	第四年次 (H29)
①小学校 外国語活動型	第1～6学年 1コマ (第1・2学年については、年間10コマ以上)	第1～4学年 1コマ	第1～4学年 1コマ	第1～4学年 1コマ
②小学校 教科型	第5・6学年 1コマ	第5・6学年 1コマ	第5・6学年 2コマ	第5・6学年 2コマ

(5) 研究計画 ※平成27年度新規採択件については、第一年次から第三年次まで記載すること。

○第一年次～第四年次、校種別

(小学校)

第一年次 従前の英語教育の成果の検証と、効果的な教材やカリキュラムの策定。評価方法についての研究。担任と専科教員の連携の強化。研究授業の実施。高等学校教員による授業参観及び出前授業。

第二年次 第1学年～第6学年までの外国語活動型及び教科型英語教育で使用する効果的な教材や指導事例の開発。「CAN-DO リスト」の形での到達目標の達成状況を把握するため、言語ポートフォリオを開発。

第三年次 評価の観点や評価規準の策定。指導事例集の作成。

第四年次 研究発表、研究冊子の作成。

(中学校)

第一年次 小学校での英語教育の成果を生かした授業内容の研究及び高度化。高等学校教員による授業参観及び出前授業。

第二年次 小学校での英語教育とのスムーズな接続のためのカリキュラムの策定。「CAN-DO リスト」の形での到達目標の達成状況把握のため、言語ポートフォリオを開発。

第三年次 効果的な教材や指導事例の開発。

第四年次 英語による授業を行い、高度な学習内容や指導方法についての研究冊子の作成。

(高等学校)

- 第一年次 小・中学校での英語教育の現状の把握。
- 第二年次 小・中学校への出前授業及び英語教育に携わる教員への支援。ディベートを中心とする高度な学習内容・方法の開発。「CAN-DO リスト」の形での到達目標の達成状況を把握する方法の開発。
- 第三年次 小・中学校への出前授業の効果的な指導事例の開発。ディベートを中心とする高度な学習指導法の研究。
- 第四年次 幅広い話題についてディベートを中心とする高度な言語活動が可能な能力を育成するための指導体制の確立。研究冊子の作成。

○平成27年度の進捗状況・課題

小学校での効果的な教材や指導法についての研究として、Oxford Reading Tree を活用した帯学習、低学年からのフォニックスの指導等を行っている。いずれも、毎回の授業の中で継続的に行うことで、「読む」「書く」力の向上につながる。引き続き外部試験等により、その効果について検証していく必要がある。

小学校及び中学校において、運営指導委員の奈良教育大学吉村雅仁教授とともに、言語ポートフォリオを、パフォーマンス課題の達成度の教員の把握のためだけでなく、生徒・児童の自己評価や相互評価を通して、英語学習への動機付けを高めるものとする研究を進めている。

高等学校では、ディベートなどによりクリティカルシンキングを促すなど、英語の発話量を増やす工夫改善についての研究が進んでいる。

今後の課題として、CAN-DO リストのより効果的な活用、学習意欲を高めるパフォーマンス課題とポートフォリオ、小学校における短時間学習(モジュール授業)の在り方、補助教材 Hi, friends! Plus の効果的な使用方法などがあげられる。特に小学校での短時間学習については、英語・外国語活動の時間の確保、年間を通しての短時間授業の中で児童の英語運用能力を高める工夫、短時間で行うことができる効果的な教材など、研究すべき課題が多い。小学校の学習指導要領の改訂において、小学校高学年では教科として週2コマ程度の英語の授業が行われる方向が示されていることも合わせ、拠点校の一部において、モジュール授業についての研究開発を当初の予定より早めて次年度から行い、また、週2コマでの効果的な教科型授業の研究を今後進めていく。

(6) 評価計画

○第一年次～第四年次、校種別

(小学校)

- 第一年次 児童へのアンケートにより、英語学習に関する意識等を定量的に把握。教員へのアンケートにより、英語教育に関する意識や指導力を調査。
- 第二年次 外部検定試験(児童英検等)や意識調査による児童の英語力や英語学習に関する意識の変容を定量的に把握。
- 第三年次 外部検定試験(児童英検等)や意識調査による児童の英語力や英語学習に関する意識の変容を定量的に把握。
- 第四年次 外部検定試験(児童英検等)や意識調査による児童の英語力や英語学習に関する意識の変容を定量的に把握。運営指導委員会において成果と今後の課題を検証。

(中学校)

- 第一年次 アンケート、外部検定試験により、生徒の英語力や英語学習に関する意識等を定量的に把握。教員へのアンケートにより、英語教育に関する意識や指導力を調査。
- 第二年次 アンケート、外部検定試験により、生徒の英語力や英語学習に関する意識等を定量的に把握。
- 第三年次 アンケート、外部検定試験により、生徒の英語力や英語学習に関する意識等を定量的に把握。
- 第四年次 アンケート、外部検定試験により、生徒の英語力や英語学習に関する意識等を定量的に把握。運営指導委員会において成果と今後の課題を検証。

(高等学校)

- 第一年次 アンケート、外部検定試験により、生徒の英語力や英語学習に関する意識等を定量的に把握。教員へのアンケートにより、英語教育に関する意識や指導力を調査。
- 第二年次 アンケート、外部検定試験により、生徒の英語力や英語学習に関する意識等を定量的に把握。
- 第三年次 アンケート、外部検定試験により、生徒の英語力や英語学習に関する意識等を定量的に把握。
- 第四年次 アンケート、外部検定試験により、生徒の英語力や英語学習に関する意識等を定量的に把握。運営指導委員会において成果と今後の課題を検証。

○平成27年度の進捗状況・課題

全ての拠点校において、外部検定試験により生徒の英語運用能力を定量的な把握を行っている。

小学校3年～6年 英検 Jr (シルバー、ブロンズ) 11月及び1月実施

中学校1年～3年 英語能力判定テスト 11月実施

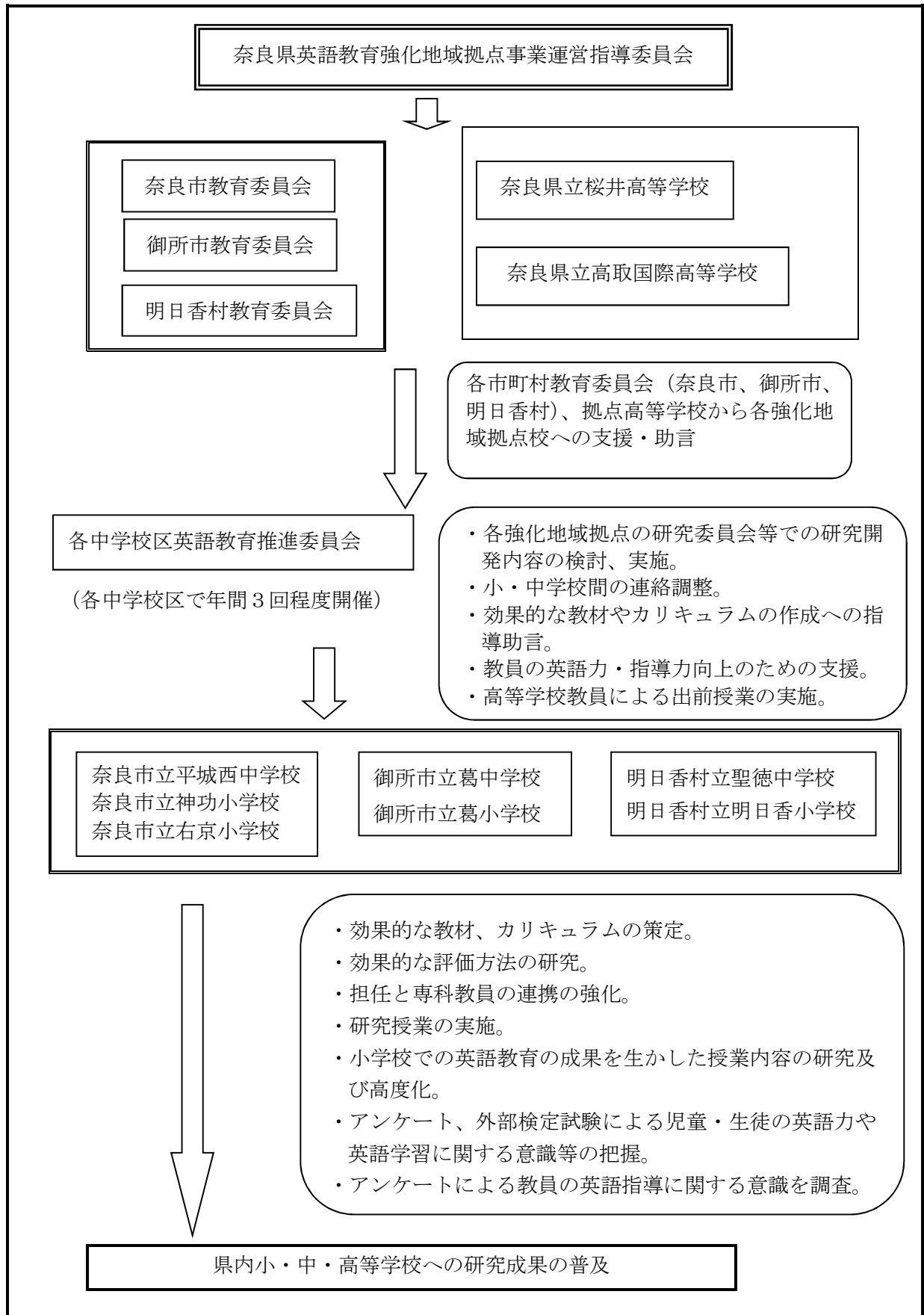
中学校2年及び高等学校1年～3年 GTEC for STUDENTS 7月及び12月実施

一部の中学校では、生徒がGTEC for STUDENTSを年2回受検することにより、英語運用能力の推移を検証する予定である。他の学校では、全生徒の複数年にわたる受検により、各生徒、学年、学校の英語力の推移をそれぞれ検証していく。

各拠点校の教員及び児童・生徒へのアンケートを年2回実施している。アンケートは、教員には自身の授業等について、児童・生徒へは英語の学習についての意識等を問うものであり、教員の英語力と指導力の向上のために行われる。今後結果の分析を行う。

4. 研究組織

(1) 研究組織の概要



(2) 運営指導委員会

①活動計画

○活動計画

- ・各強化地域拠点の研究委員会、ワーキンググループ等での研究開発内容の検討、実施
- ・各小・中学校間の連絡調整
- ・効果的な教材やカリキュラムの作成への指導助言
- ・教員の英語力・指導力向上のための支援
- ・高等学校英語科教員による授業参観と出前授業の実施

○平成 27 年度の進捗状況・課題

運営指導委員会で、各拠点地域での研究内容の共有や、研究に対する指導助言等を行っている。今年度より、運営指導委員会には、研究の促進や成果・課題の共有のため、拠点校の校長にも参加いただいている。

各拠点地域で研究発表会では、研究授業についての協議、吉村雅仁委員（奈良教育大学教授）や前田康二委員（同准教授）による研究課題に関する講義等を行っている。

運営指導委員会の指導助言のもと、各校の研究担当の教員によるワーキンググループで、効果的な授業や小・中・高等学校で連携した CAN-DO リストの作成を行っている。

中高連携プロジェクトとして、中学校の生徒が高等学校に訪問し、合同で授業を行った。

外部検定試験の結果や、各拠点校で実施した教員及び児童・生徒への意識アンケートの結果を運営指導委員会で分析し、今年度の研究成果や次年度への課題を明らかにしていく。

5. 年間事業計画

月	強化地域拠点の取組	運営指導委員会
4月	・運営指導委員会の設置	
5月	・第1回運営指導委員会	各強化地域拠点間で活動計画交流 研究開発課題の共有
6月	・アンケートによる児童・生徒の英語学習に関する意識等の把握 ・アンケートによる教員の英語指導に関する意識調査	
7月	平成27年度「英語教育強化地域拠点事業」に係る実地調査（奈良市） ・外部検定試験（GTEC for STUDENTS）による生徒の英語力の把握 ・先進校視察	
8月		

9月		
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・ワーキンググループ研修会 ・先進校視察 	
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回運営指導委員会 ・ワーキンググループ研修会 ・中高連携プロジェクト ・各強化地域拠点校における研究授業の実施 ・外部検定試験（英検 Jr・英語能力判定テスト）による児童・生徒の英語力の把握 	<p>第2回 各強化地域拠点から経過報告 運営指導委員会による研究校への指導助言</p>
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・御所市研究発表会 ・外部検定試験（GTEC for STUDENTS）による生徒の英語力の把握 	
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・明日香村研究発表会 ・第3回運営指導委員会 ・アンケートによる児童・生徒の英語学習に関する意識等の把握 ・アンケートによる教員の英語指導に関する意識調査 ・外部検定試験（英検 Jr）による児童の英語力の把握 ・会計収支報告 	<p>第3回 各強化地域拠点から経過報告 運営指導委員会による研究校への指導助言</p>
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・実践記録集、指導案集の作成・配布 	研究のまとめ
3月		
【その他の取組】※あれば記入		

平成28年1月4日

事業経過報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

市町村教育委員会等名 奈良市教育委員会

所 在 地 奈良県奈良市二条大路南一丁目1番1号

代表者職氏名 教育長 中室 雄俊

平成27年度英語教育強化地域拠点事業における事業経過報告書を提出します。

1. 事業の実施期間

委託を受けた日 ～ 平成28年3月31日

2. 強化地域拠点の学校名 (学校数が多い場合は欄を追加すること)

ふりがな	ならしりつうきょうしょうがっこう	ふりがな	おかだ ひでき
学校名	奈良市立右京小学校	校長名	岡田 秀樹
ふりがな	ならしりつじんぐうしょうがっこう	ふりがな	しまだ のぶひろ
学校名	奈良市立神功小学校	校長名	島田 信裕
ふりがな	ならしりつへいじょうにしちゅうがっこう	ふりがな	かわい よしのぶ
学校名	奈良市立平城西中学校	校長名	川井 義信

3. 研究内容

(1) 研究開発課題

社会のグローバル化に対応できるコミュニケーション能力を育むため、小学校1～4年生に活動型、5・6年生に教科型で英語教育を実施した場合の教育課程、指導及び評価方法並びに中学校における指導内容の高度化についての研究開発

(2) 研究の概要

平成21年度より教育課程特例校として小学校1年生から中学校3年生で実施してきた英会話科の実践を充実・発展させるとともに、本市が取り組む世界遺産学習と関連付けた発信型活動を取り入れながら、下記の点について研究を行う。

- ① 各学年の学習到達目標の設定とCAN-DOリストの作成
- ② 市内の世界遺産等を活用した発信型活動の在り方
- ③ 小学校において英語教育を早期化し、中学校の指導内容の一部を移行した場合の適切な時数及びカリキュラム
- ④ 小学校において教科型で指導した場合の適切な評価規準及び評価方法の研究
- ⑤ 小学校における外部人材の効果的な活用方法
- ⑥ 小学校英語教育を踏まえた中学校における指導内容の高度化及びその指導方法

- ⑦ 小中連携による効果的な英語教育推進のための教員の組織及び研究体制
 ⑧ 高等学校と連携した CAN-DO リストの検証

(3) 現状の分析と仮説等

①現状の分析と研究の目的

教育課程特例校として小学校1年生から実施してきた英会話科の学習を通し、児童は英語を使った活動に慣れ親しんできている。平成24年度に本市の教育課程特例校の教員を対象に実施したアンケートでは、「英会話科により、英語によるコミュニケーション能力がついてきた」の設問に対し、小学校教員の80.6%が肯定的な回答をした。一方、中学校教員で肯定的な回答をした割合は50%に留まり、小学校で培われたコミュニケーション能力の素地が、中学校におけるコミュニケーション能力の基礎の育成に十分反映されていないことが伺えた。このことは、平成26年2月に市立中学校2年生を対象に実施した英語能力判定テストにおいて、中学中級程度の力があると診断された生徒が当該中学校の57%に留まったことから明らかである。

小学校で培ったコミュニケーション能力の素地を、確実に中学校でコミュニケーション能力の基礎の育成につなげるために、小学校と中学校の9年間を見通した学習到達目標を設定する。さらにその達成のためのカリキュラムを作成し、その効果について検証を行う。

②研究仮説

小学校と中学校の9年間の学習到達目標及びCAN-DOリストを設定し、各学年における学習内容を確実に定着させながら学習を積み上げることで、児童生徒の英語によるコミュニケーション能力は確実に養われるだろう。

③研究成果の評価方法

- ・アンケートを実施し、児童生徒及び教員の意識について調査する。
- ・小学校6年生及び中学校全学年の児童生徒を対象に外部検定試験を実施し、英語力を測定する。

(4) 研究開発型

	開始学年及び週当たり授業時数コマ			
	第一年次	第二年次	第三年次	第四年次
①小学校 外国語活動型	第1・2学年 年間10コマ 第3・4学年 1コマ	第1・2学年 年間10コマ	第1・2学年 年間20コマ	第1・2学年 年間20コマ
②小学校 教科型	第5・6学年 1コマ	第3・4学年 1コマ第 5・6学年 1コマ	第3・4学年 1コマ 第5・6学年 2コマ	第3・4学年 1.3コマ 第5・6学年 3コマ

(5) 研究計画

第一年次 各学年の到達目標を設定し、中学校において CAN-DO リストを作成する。	
小学校	<ul style="list-style-type: none"> これまでの英会話科カリキュラムを実践しながら見直し、各学年の到達目標を設定するとともに、数値を用いた指標について研究する。 中学校の指導内容を移行した場合のカリキュラムについて研究・作成する。 市内の世界遺産等を活用した発信型活動の指導計画を作成し、試行する。 校内研修や中学校との合同研修等を開催し、小学校教員の英語の授業力向上を図る。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> 小学校に指導内容を移行した場合のカリキュラムを作成し、各学年の到達目標を設定するとともに、数値を用いた指標について研究し、CAN-DO リストを作成する。 平成 25 年度の英語能力判定テストの結果を分析し、指導内容及び指導方法の改善を図る。 市内の世界遺産等を活用した発信型活動の指導計画を作成し、試行する。 小学校との合同研修等を開催し、小学校の研究に助言を行うと同時に、中学校教員の指導力向上を図る。
第二年次 第一年次に作成したカリキュラムを試行し、指導方法を実践研究するとともに、小学校において CAN-DO リストを作成する。	
小学校	<ul style="list-style-type: none"> 5・6 年生において、第一年次に作成したカリキュラムを試行し、その改善を図るとともに、文部科学省作成の補助教材の活用方法について研究する。 1 年生から 4 年生における外部人材を活用した指導事例について実践し、改善を図る。 第一年次に作成した CAN-DO リストを基に、小学校の英語指導における評価基準及び評価方法について研究する。 5・6 年生の到達度確認テストについて研究・作成する。 市内の世界遺産等を活用した発信型活動の指導事例集を作成する。 各学年において公開研究授業等を実施し、教員全体の英語の指導力向上を図る。 個々の英語力向上のための教員研修等を継続する。 作成した CAN-DO リストの形での学習到達目標を検証し、小・中・高等学校までの一貫した目標を中・高等学校の教員と作成する。 学習到達目標の達成状況を把握するための方策を中・高等学校の教員と研究する。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の確実な定着を図るため、CAN-DO リストを用いて各単元における到達度の確認を随時行い、指導内容の改善を図る。 高度な指導を行う場合の適切な教材や指導方法について研究し、指導計画を作成するとともに、その適切な評価の在り方について研究する。 市内の世界遺産等を活用した発信型活動の指導事例集を作成する。 世界遺産学習全国サミット等で、生徒が学習成果を発表する機会を設定する。 全ての外国語担当教員が公開研究授業等を実施し、教員全体の指導力向上を図る。 個々の英語力向上のための教員研修等を継続する。 作成した CAN-DO リストの形での学習到達目標を検証し、小・中・高等学校までの一貫した目標を小学校及び高等学校の教員と作成する。 学習到達目標の達成状況を把握するための方策を小学校及び高等学校の教員と研究する。

第三年次 第一・二年次の実践を見直し、その成果と課題を研究中間発表会で報告する。	
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の英語指導における評価の観点及び評価規準を完成させるとともに、評価・評定を実施し、その有効性について検証する。 ・5・6年生の指導を学級担任と専科教員が行った場合のそれぞれの効果を比較検証する。 ・モジュール授業を用いた場合の指導計画を作成する。 ・小中合同で研究中間発表会を開催する。 ・教員研修等を継続する。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・第二年次に作成した高度な指導計画を試行し、評価の妥当性を検証するとともに、指導事例集を作成する。 ・小中合同で研究中間発表会を開催する。 ・世界遺産学習全国サミット等で、生徒が学習成果を発表する機会を設定する。 ・教員研修等を継続する。
第四年次 実践内容の改善を図りながら、研究の成果と課題をまとめる。	
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・モジュール授業を試行し、その有効性について検証する。 ・第三年次までの改善案を実践する中で、問題点を探り、実践内容の改善を図る。 ・指導案集等、研究成果を研究冊子にまとめる。 ・ホームページ等で実践の様子や研究成果を公開する。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・第三年次までの改善案を実践する中で、問題点を探り、実践内容の改善を図る。 ・指導案集等、研究成果を研究冊子にまとめる。 ・世界遺産学習全国サミット等で、生徒が学習成果を発表する機会を設定する。 ・ホームページ等で実践の様子や研究成果を公開する。

○平成27年度の進捗状況・課題

(小学校)

- ・第一年次に作成したカリキュラムを試行し、その改善を図るとともに、文部科学省作成の補助教材 **Hi, friends! Plus** の効果的な活用について研究した。
- ・第一年次に作成した CAN-DO リストを試行し、その改善を図るとともに、小学校の英語指導における評価規準及び評価方法について研究した。
- ・各学年において公開研究授業等を実施し、教員全体の英語の指導力向上を図った。
- ・個々の英語力向上のための教員研修等を実施した。

(中学校)

- ・学習内容の確実な定着を図るため、CAN-DO リストを用いて各単元における到達度の確認を随時行い、指導内容の改善を図った。
- ・世界遺産学習全国サミット等で、生徒が学習成果を発表する機会を設定する。(1月29日)
- ・全ての外国語担当教員が公開研究授業等を実施し、教員全体の指導力向上を図った。
- ・個々の英語力向上のための教員研修等を実施した。

(課題)

- ・作成した CAN-DO リストの形での学習到達目標を検証し、小・中・高等学校までの一貫した目標を小学校、中学校及び高等学校の教員が協働して作成していくことについて。

(6) 評価計画

第一年次 主に研究計画などから評価する。	
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第四年次までの研究計画について、運営指導委員会や学識経験者からの指導助言を基に、その妥当性について英語教育小中合同研究会議で検討する。 ・ 設定した到達目標について、運営指導委員会や平城西中学校区英語教育推進委員会（仮称）からの指導を基に、その妥当性について英語教育小中合同研究会議で検討する。 ・ 7月、1月に児童・教員・保護者を対象に意識調査をする。 ・ 1月に6年生の児童を対象に英語検定を実施する。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第四年次までの研究計画について、運営指導委員会や学識経験者からの指導助言を基に、その妥当性について英語教育小中合同研究会議で検討する。 ・ 到達目標や作成した CAN-DO リストについて、運営指導委員会や平城西中学校区英語教育推進委員会（仮称）からの指導を基に、その妥当性について英語教育小中合同研究会議で検討する。 ・ 7月、1月に生徒・教員・保護者を対象に意識調査をする。 ・ 1月に生徒全員を対象に英語能力判定テストを実施する。
第二年次 主に評価方法から評価する。	
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作成した CAN-DO リストや評価規準等について、運営指導委員会や学識経験者からの指導助言を基に、その妥当性について英語教育小中合同研究会議で検討する。 ・ 7月、1月に児童・教員・保護者を対象に意識調査をする。 ・ 1月に6年生の児童を対象に英語検定を実施する。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作成した高度な内容の指導計画について、運営指導委員会や学識経験者からの指導助言を基に、その妥当性について英語教育小中合同研究会議で検討する。 ・ 7月、1月に生徒・教員・保護者を対象に意識調査をする。 ・ 1月に生徒全員を対象に英語能力判定テストを実施する。
第三年次 主に実践内容から評価する。	
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5・6年生の指導を学級担任と専科教員が行った場合のそれぞれの効果について、運営指導委員会や学識経験者からの指導助言を基に、その妥当性について英語教育小中合同研究会議で検討する。 ・ 7月、1月に児童・教員・保護者を対象に意識調査をする。 ・ 1月に6年生の児童を対象に英語能力判定テストを実施する。 ・ 研究中間発表会等で得た外部からの客観的な意見を基に研究の改善に生かす。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高度な内容の指導及びその評価について、運営指導委員会や学識経験者からの指導助言を基に、その妥当性について英語教育小中合同研究会議で検討する。 ・ 7月、1月に生徒・教員・保護者を対象に意識調査をする。 ・ 1月に生徒全員を対象に英語能力判定テストを実施する。 ・ 研究中間発表会等で得た外部からの客観的な意見を基に研究の改善に生かす。
第四年次 主に児童生徒の変容から成果や課題を評価する。	

小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・7月, 1月に児童・教員・保護者を対象に意識調査をする。 ・1月に6年生の児童を対象に英語能力判定テストを実施する。 ・条件の違い(学級担任の指導, 専科教員の指導, モジュール授業の有無)ごとに, その成果や課題を検証する。 ・研究の経過の記録や客観的な分析により, 研究そのものについて評価する。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・7月, 1月に生徒・教員・保護者を対象に意識調査をする。 ・1月に生徒全員を対象に英語能力判定テストを実施する。 ・研究の経過の記録や客観的な分析により, 研究そのものについて評価する。

○平成27年度の進捗状況・課題

(小学校)

- ・2月に6年生の児童を対象に英語検定(英検 Jr.)を実施する予定である。

(中学校)

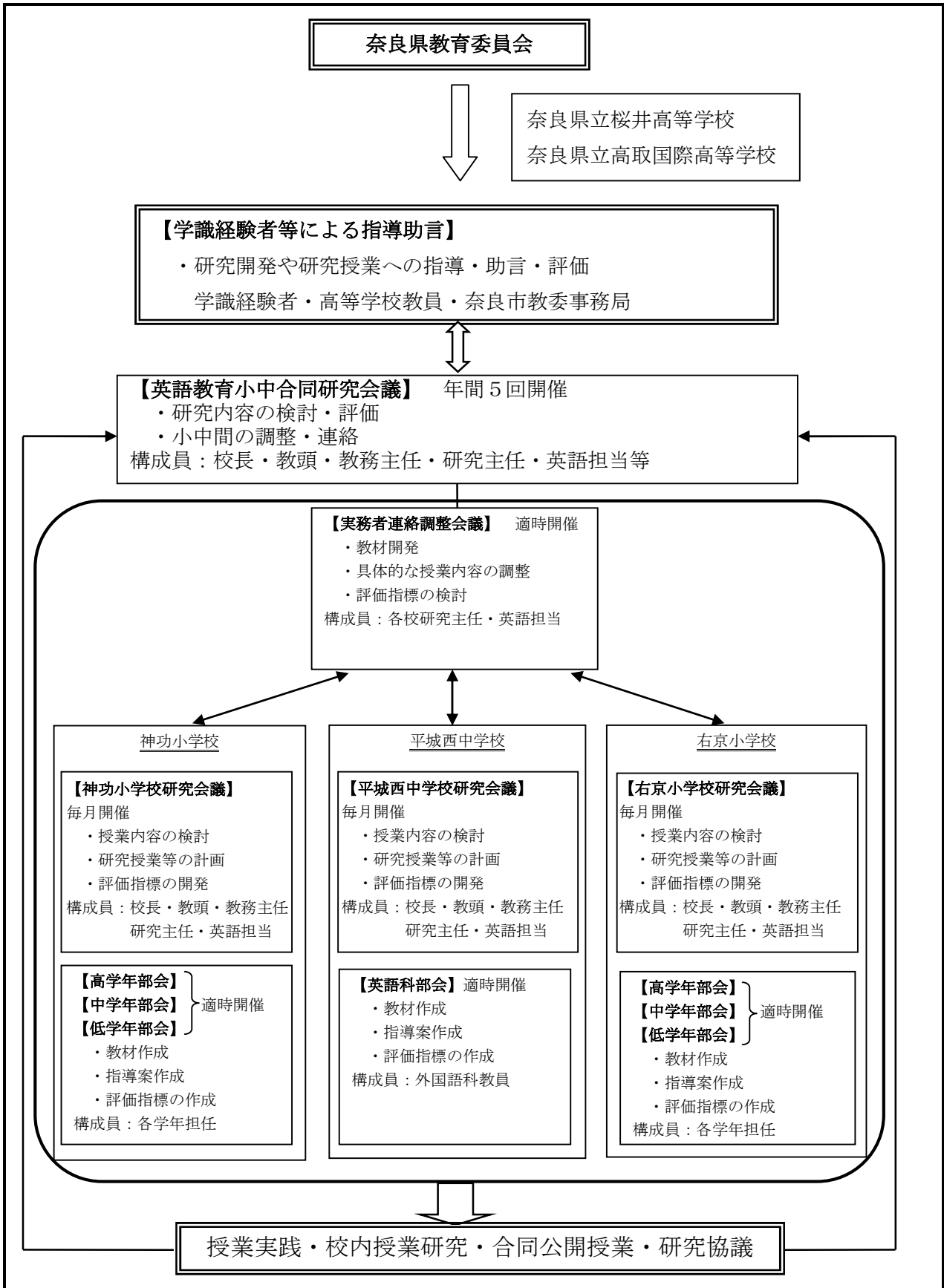
- ・2月に全学年の生徒を対象に英語能力判定テストを実施する予定である。

(課題)

- ・小学校でのCAN-DOリストや評価規準、中学校での高度な内容の指導計画について、さらに研究を深める必要がある。

4. 研究組織

(1) 研究組織の概要



5. 年間事業計画

月	強化地域拠点の取組	運営指導委員会
4月	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研究組織の設置 ○実務者連絡調整会議① <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム及び文部科学省補助教材の活用方法について検討 ・年間の研修，研究授業及び先進地視察計画立案 	
5月	<ul style="list-style-type: none"> ○実務者連絡調整会議② <ul style="list-style-type: none"> ・CAN-DO リストの見直し 	
6月	<ul style="list-style-type: none"> ○第1回英語教育小中合同研究会議 <ul style="list-style-type: none"> ・年間の計画について ○実務者連絡調整会議③ <ul style="list-style-type: none"> ・意識調査項目の検討 ○児童生徒・教員対象に意識調査を実施 	
7月	<ul style="list-style-type: none"> ○第2回英語教育小中合同研究会議 <ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中の研究計画について 	
8月	<ul style="list-style-type: none"> ○実務者連絡調整会議④ <ul style="list-style-type: none"> ・5・6年到達度確認テストの研究・作成 ・中学校における高度な指導内容についての検討 	
9月	<ul style="list-style-type: none"> ○実務者連絡調整会議⑤ 	
10月	<ul style="list-style-type: none"> ○実務者連絡調整会議⑥ 	
11月	<ul style="list-style-type: none"> ○第3回英語教育小中合同研究会議 <ul style="list-style-type: none"> ・研究の進捗状況について ○実務者連絡調整会議⑦ ○先進地視察（岐阜県大垣市立中川小学校） 	
12月	<ul style="list-style-type: none"> ○実務者連絡調整会議⑧ ○児童生徒・教員対象に意識調査を実施 	
1月	<ul style="list-style-type: none"> ○強化地域拠点連絡協議会 ○実務者連絡調整会議⑨ <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度研究計画について検討 	
2月	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校6年生から中学校3年生までの児童生徒を対象に英検 Jr. 又は英語能力判定テストを実施 ○実務者連絡調整会議⑩ <ul style="list-style-type: none"> ・児童英検及び英語能力判定テストの結果分析 	
3月	<ul style="list-style-type: none"> ○第4回英語教育小中合同研究会議 <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度研究成果について 	

	○実務者連絡調整会議⑪	
【その他の取組】		
1月	小中一貫教育全国サミット in なら	
2月	イングリッシュチャレンジカップ（英語でのプレゼンテーション発表会）	

平成28年1月4日

事業経過報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

市町村教育委員会等名 御所市教育委員会

所 在 地 奈良県御所市1番地3

代表者職氏名 教育長 榊田 行男

平成27年度英語教育強化地域拠点事業における事業経過報告書を提出します。

1. 事業の実施期間

委託を受けた日 ～ 平成28年3月31日

2. 強化地域拠点の学校名 (学校数が多い場合は欄を追加すること)

ふりがな	ごせしりつ くずしょうがっこう	ふりがな	にしかわ きよし
学校名	御所市立 葛小学校	校長名	西川 潔
ふりがな	ごせしりつ くずちゅうがっこう	ふりがな	にしかわ きよし
学校名	御所市立 葛中学校	校長名	西川 潔
ふりがな		ふりがな	
学校名		校長名	

3. 研究内容

(1) 研究開発課題

小中一貫教育の英語教育において、全ての児童・生徒に言語ポートフォリオを持たせ、自己評価・相互評価・ルーブリック・パフォーマンス評価を位置付け、児童・生徒の英語運用能力を養う教育課程の研究開発

(2) 研究の概要

本研究の目的は、現在行われている自己評価・相互評価に加え、児童・生徒の興味・関心等の学習状況の変容について定量的に把握するためのルーブリックを開発し、さらにパフォーマンス評価を位置付けることで、習得した知識やスキルを使いこなすことが求められることに着目し、外国語科において新たな評価計画を編成するものである。

具体的には、

- ①現在の評価の観点を各学年の学習内容に応じて類型化した表を作成し、運用を図る。
- ②各教科・領域と連携し、我が国の伝統・文化を発信することに重きをおいた教材を開発し、児童・生徒の英語運用能力の育成を目指す「English Performance (EP)」の時間を導入する。
- ③現在小学校で使用しているポートフォリオにルーブリックを組み込み、中学校に継承させるこ

とでなめらかな接続を実現する。

- ④小学校においては、学級担任を主としながら、英語担当教員と ALT や地域人材との TT を活用し、学習集団と指導体制を工夫する。
- ⑤高校教員による出前授業や研修会、また、定期的な研究成果報告会などを行いながら、CAN-DO リストにおける小中高の一貫性のあり方を研究する。

(3) 現状の分析と仮説等

①現状の分析と研究の目的

本校は 2004 年度の特区認定時より、5・6 年生で週 1 時間の「英語科」、3・4 年生で週 1 時間の「英語活動」を、翌年度は早期英語教育推進事業として 1・2 年生で週 1 時間の「英語活動」を、3・4 年生、5・6 年生はそれぞれ週 2 時間実施、2009 年度以降は教育課程特例校として 1～4 年生で週 1 時間の「外国語活動」を、5・6 年生で週 2 時間の「英語科」を実施してきた。2011 年度以降は、5・6 年生において、話すこと・聞くことに焦点化した「英語 A」と、書くこと・読むことに焦点化した「英語 B」をそれぞれ週 1 時間実施している。

この 10 年間にわたって、小学校 1 年生から系統性をもって歌や英語活動を通して、ALT や様々な国の文化に親しむ、「個を開くための英語」という認識をもって取り組んできた。しかし、6 年間英語を積み上げてきた児童が中学部へと進学したときにつまづきや段差・格差を感じ、意欲を欠いてしまうといった課題に直面してきた。その要因は、中学校英語では、読むこと・書くことという言語力においては差が現れやすい領域が加わること、また現行の入試制度のもと、読むこと・書くことの指導と評価にシフトしていかざるを得ないところに段差があるのではないだろうか。子供たちにも、教員にも外国語活動と英語科は別物という認識があり、一小一中の小中学校でありながらもスムーズな連携が実現できていないという現実、新たな評価計画を編成し、児童・生徒の英語運用能力を高め、教員の指導力向上を目指したい。

②研究仮説

パフォーマンス評価を深め、これまでの読むこと・書くことの指導を大切にしながら、中学校において「English Performance(EP)」の時間を導入し、英語運用能力の評価方法を変え、子供たちの実態を変えていく。小学校においても、各学年でパフォーマンス評価を位置付ける。また、5・6 年生において週 1 時間実施する教科型により、読むこと・書くことのなめらかな接続を図る。具体的な English Performance(EP)としては、小学校では話すこと・聞くことを主として、低学年に関しては主として自分に関すること（一人称）、高学年になるにつれて友だちや家族に関すること（二人称から三人称へ）、中学校においては、我が国の郷土や文化に関すること（俳句・詩・古典の英語化や英語での古典芸能、ホームページ作成、英語ブログなど）をデジタルポートフォリオ等の活用を通して系統立てたい。

現在小学校で使用している言語ポートフォリオを中学校でも導入し、ルーブリックを組み込むことで定量的に児童・生徒の運用能力を把握する。また言語ポートフォリオを中学校に継承させることで、個に応じた支援や指導につなげたい。

中学校において週 1 時間あたりの English Performance(EP)の時間の設定が教育課程の特例として必要となる。

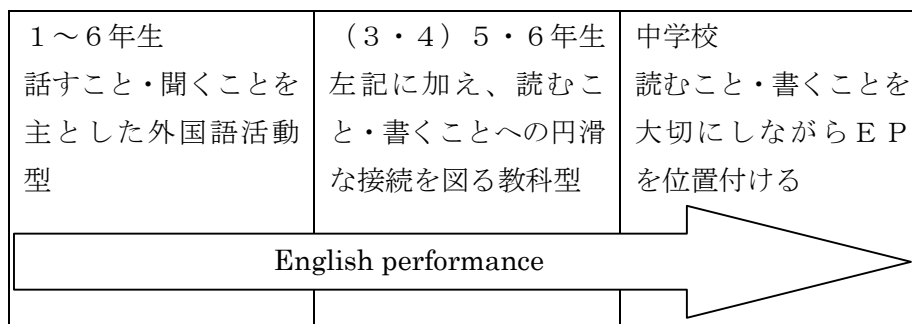
③研究成果の評価方法

児童・生徒の英語運用能力が、今回の取組によりどのように深化しているかを検討できるルーブリックを作成し、ポートフォリオに組み込み、実施する。

English Performance (EP) の活動記録分析や実態調査や表現分析を定期的に行い、長期には活動毎の達成過程の多項目評価を蓄積し、短期には指導評価として活用するとともに、期間の区切り毎に児童・生徒の学習過程をふり返り、成果をフィードバックする方法を開発する。

外国語活動、英語科に携わる教員用に、デジタル教材の扱いや Classroom English などの英会話能力を明確化するルーブリックを組み込み、ポートフォリオを開発し、TTや校内研修を通して、授業力向上のための評価を行う。

上記のことに関して、取組以前と取組以後を比較検討するために、一年次、二年次、三年次にわたって活動記録分析や実態調査や表現分析を行う。



(4) 研究開発型

	開始学年及び週当たり授業時数コマ			
	第一年次	第二年次	第三年次	第四年次
①小学校 外国語活動型	第1～6学年 1コマ	第1～6学年 1コマ	第1～6学年 1コマ	第1～6学年 1コマ
②小学校 教科型	第5・6学年 1コマ	第3～6学年 1コマ	第3～4学年 1コマ (モジュール) 第5～6学年 2コマ	第3～4学年 1コマ (モジュール) 第5～6学年 3コマ (内1コマ はモジュール)

(5) 研究計画

○第一年次～第四年次、校種別

小学校

第一年次

- ・ルーブリックを組み込ませたポートフォリオ、パフォーマンス評価を位置付ける新たなカリキュラム編成の試行と指導法の検討。
- ・公開研究会等の開催と第一年次の研究成果の報告。

第二年次

- ・ 第一年次の計画を成果の評価に照らし、修正や拡充を加え、運用を図る。
- ・ 評価法の更新。
- ・ 公開研究会の開催と第二年次の研究成果の報告。

第三年次

- ・ 第二年次の計画を成果の評価に照らし、修正や拡充を加え、本格化させる。
- ・ 評価法の更新。
- ・ 公開研究会の開催と第三年次の研究成果の報告。

第四年次

- ・ 第三年次を引き継ぎつつ、より進展させた研究開発の確立と評価に向けた作業を行う。
- ・ 研究開発の評価と成果発表のための公開研究会を行う。
- ・ 他校での実践に向けた検討・評価、実践事例の公表、提言を行う。

○平成 27 年度の進捗状況

- ・ 11 月に 6 年生を対象に英検 Jr を実施。結果分析を行い、児童の実態把握に役立てた。
- ・ 1 月に 3 年生から 6 年生を対象に英検 Jr を実施する。
- ・ 12 月に県内本研究拠点校を対象に研究発表会を実施した。

中学校

第一年次

- ・ ルーブリックを組み込ませたポートフォリオ、パフォーマンス評価を位置付ける新たなカリキュラム編成の試行と指導法の検討。
- ・ English Performance (EP) の時間のカリキュラムと各教科・領域との関連及び相互関係の検討。
- ・ 公開研究会等の開催と第一年次の研究成果の報告。

第二年次

- ・ 第一年次の計画を成果の評価に照らし、修正や拡充を加え、運用を図る。
- ・ English Performance (EP) の時間の実施と内容の改善。
- ・ 評価法の更新。
- ・ 公開研究会の開催と第二年次の研究成果の報告。

第三年次

- ・ 第二年次の計画を成果の評価に照らし、修正や拡充を加え、本格化させる。
- ・ English Performance (EP) の時間の実施と内容の改善・評価法の更新。
- ・ 公開研究会の開催と第三年次の研究成果の報告。

第四年次

- ・ 第三年次を引き継ぎつつ、より進展させた研究開発の確立と評価に向けた作業を行う。
- ・ 研究開発の評価と成果発表のための公開研究会を行う。
- ・ 他校での実践に向けた検討・評価、実践事例の公表、提言を行う。

○平成 27 年度の進捗状況

- ・ 7 月に 2 年生を対象に GTEC を実施。結果分析を行い、児童の実態把握に役立てた。
- ・ 1 月に 1 年生と 2 年生を対象に GTEC を実施する。
- ・ 12 月に県内の本研究拠点校を対象に研究発表会を実施した。

(6) 評価計画

○第一年次～第四年次、校種別

小学校

第一年次

- ・パフォーマンス力の育ちの実態調査を行い、それを基に研究仮説の確認検討を行う。
- ・各学年における学習場面での評価、長期時系列に見た成長の過程での評価を行う。
- ・実践事例を集積し、研究大会等を開催し、実践事例の分析、検討、評価を行う。
- ・研究会を実施し、第一年次の研究成果を公表し評価を得る。

第二年次

- ・各学年における学習場面での評価、長期時系列に見た成長の過程での評価を行い、二年間の研究成果の評価を行う。
- ・実践事例を集積し、研究大会等を開催し、実践事例の分析、検討、評価を行う。
- ・研究会を実施し、第二年次までの研究成果を公表し評価を得る。

第三年次

- ・年度当初に、各種の評価法による多角的な実態調査を行い、第二年次の研究成果を評価する。
- ・各学年における学習場面での評価、長期時系列に見た成長の過程での評価を行い、三年間の研究成果の評価を行う。
- ・実践事例を集積し、研究大会等を開催し、実践事例の分析、検討、評価を行う。
- ・研究会を実施し、第三年次までの研究成果を公表し評価を得る。

第四年次

- ・年度当初に、各種の評価法による多角的な実態調査を行い、三年間の研究成果を評価する。
- ・研究会等を開催し、実践事例の分析、検討、評価を行う。
- ・公開研究会を実施し、第三年次までの研究成果を公表し評価を得る。
- ・年度末に四年間の研究成果の総括的評価を行う。

○平成 27 年度の進捗状況

- ・平成 27 年 12 月に英語教育強化地域拠点事業拠点校研究発表会を実施し、5 年生の公開授業の後、奈良教育大学教授に講演を行っていただいた。
- ・平成 28 年 2 月には県小学校外国語活動研究大会の会場校として低・中・高学年で計 3 本の授業を公開する。いずれもルーブリックを活用したパフォーマンス評価を位置付けた授業を実施し、参観者から指導、評価をいただいた。
- ・3 年生から 6 年生までを対象に英検 Jr を実施し、その結果を基にして指導改善に努めた。

中学校

第一年次

- ・パフォーマンス力の育ちの実態調査を行い、それを基に研究仮説の確認検討を行う。
- ・各学年における学習場面での評価、長期時系列に見た成長の過程での評価を行う。
- ・実践事例を集積し、研究大会等を開催し、実践事例の分析、検討、評価を行う。
- ・研究会を実施し、第一年次の研究成果を公表し評価を得る。

第二年次

- ・各学年における学習場面での評価、長期時系列に見た成長の過程での評価を行い、二年間の研

究成果の評価を行う。

- ・実践事例を集積し、研究大会等を開催し、実践事例の分析、検討、評価を行う。
- ・研究会を実施し、第二年次までの研究成果を公表し評価を得る。

第三年次

- ・年度当初に、各種の評価法による多角的な実態調査を行い、第二年次の研究成果を評価する。
- ・各学年における学習場面での評価、長期時系列に見た成長の過程での評価を行い、三年間の研究成果の評価を行う。
- ・実践事例を集積し、研究大会等を開催し、実践事例の分析、検討、評価を行う。
- ・研究会を実施し、第三年次までの研究成果を公表し評価を得る。

第四年次

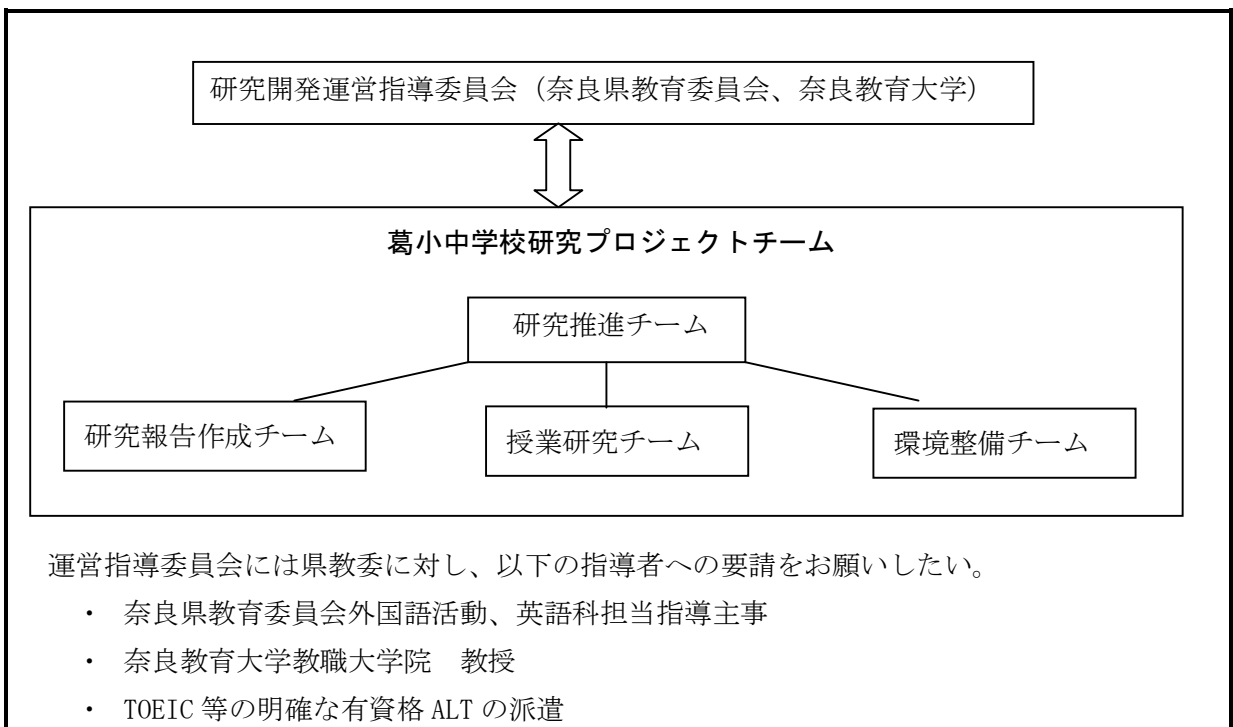
- ・年度当初に、各種の評価法による多角的な実態調査を行い、三年間の研究成果を評価する。
- ・研究会等を開催し、実践事例の分析、検討、評価を行う。
- ・公開研究会を実施し、第三年次までの研究成果を公表し評価を得る。
- ・年度末に四年間の研究成果の総括的評価を行う。

○平成 27 年度の進捗状況

- ・平成 27 年 12 月に英語教育強化地域拠点事業拠点校研究発表会を実施し、2 年生の公開授業の後、奈良教育大学教授に講演を行っていただいた。また参観者からは授業に関わる指導や評価をいただいた。
- ・一年間を通してルーブリックを活用したパフォーマンス評価を位置付けた授業実践を行った。
- ・1 年生と 2 年生を対象に GTEC を実施（1 年生は 1 回、2 年生は 2 回）し、客観的評価を基に指導法の改善に努めた。

4. 研究組織

(1) 研究組織の概要



5. 年間事業計画

月	強化地域拠点の取組	運営指導委員会
4月	新体制本事業プロジェクトチーム発足 English Performance (EP)の時間の実施のための研修 第一年次の計画を成果の評価に照らし、第二年次の研究計画の編成	
5月	作成したルーブリックと実践事例に修正や拡充を加え、運用を図る English Performance (EP)の時間の実施と内容の改善 小中学校別 CanDo リストの改善	
6月	作成したルーブリックと実践事例に修正や拡充を加え、運用を図る	
7月	作成したルーブリックと実践事例に修正や拡充を加え、運用を図る CanDo リストを基に授業研究 (小学3年生) 奈良市拠点校研究発表会に参加 (4名)	
8月	パフォーマンス評価に関わる研修 校内環境整備 パフォーマンス課題の開発 奈良教育大学において、2名の教員が英語指導力パワーアップ研修に参加	
9月	パフォーマンス評価を位置付けた授業研究 (小学4年生) English Performance (EP)の時間の実施と内容の改善	
10月	English Performance (EP)の時間の実施と内容の改善	
11月	パフォーマンス評価を位置付けた授業研究 (小学2年生) English Performance (EP)の時間の実施と内容の改善 評価法の更新	
12月	県内拠点校を対象とした研究発表会 (小学5年生、中学2年生公開授業、奈良教育大学教授 研究発表会による中間報告での分析、検討を行う English Performance (EP)の時間の実施と内容の改善	

1月	拠点校明日香村での研究発表会に参加 English Performance (EP)の時間の実施と内容の改善 評価法の更新	
2月	奈良県小学校外国語活動研究会会場校として授業公開（小学 1年生、4年生、5年生） 研究会の実施 パフォーマンス力の育ちの実態調査を行い、研究仮説の確認 検討を行う	
3月	パフォーマンス力の育ちの実態調査を行い、研究仮説の確認 検討を行う 第二年次研究紀要作成	
【その他の取組】※あれば記入 オープンスクール、校内研修、HP更新		

平成 28 年 1 月 4 日

事業経過報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

市町村教育委員会等名 明日香村教育委員会
所 在 地 奈良県高市郡明日香村大字川原 91-1
代 表 者 職 氏 名 教育長 田中 祐二

平成 27 年度英語教育強化地域拠点事業における事業経過報告書を提出します。

1. 事業の実施期間

委託を受けた日 ～ 平成 28 年 3 月 31 日

2. 強化地域拠点の学校名

ふりがな	あすかそんりつあすかしょうがっこう	ふりがな	しろもと よしのり
学校名	明日香村立明日香小学校	校長名	城本 善紀
ふりがな	あすかそんりつしょうとくちゅうがっこう	ふりがな	もりもと あきひろ
学校名	明日香村立聖徳中学校	校長名	森本 昭博

3. 研究内容

(1) 研究開発課題

- 明日香に根ざした“国際人”の育成
 - ・ 中学 3 年生でコミュニケーションができる能力を
 - ・ 郷土明日香に対して、自信と誇りと発信を
 - ・ 国際交流を通して積極的に異文化を学ぶ力と世界に目を向ける力を
 - ・ 幼・小・中一貫した英語教育を

(2) 研究の概要

- ①小学校において、第 3～6 年で英語科を設け、各学年のカリキュラムと教材を作成する。
(各学年 1 時間を増設)
- ②中学校においては、小学校の英語教育の基礎の上に、さらに充実した英語教育を推進するためのカリキュラムと教材を作成し、コミュニケーション力を高める。(各学年 1 時間増設)
- ③楽しく意欲的に学ぶ英語活動・英語教育を推進するために、幼・小・中の連携と接続について、月 1 回の研究部会で研究する。

(3) 現状の分析と仮説等

①現状の分析と研究の目的

- ・明日香村は、「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」として、世界遺産暫定リストに登録されるほど、我が国を代表する歴史的文化遺産を有する村である。豊富な歴史や文化、自然に恵まれ、日本国内だけでなく、海外からの注目も高く、郷土を愛し、郷土に誇りをもち、郷土を語れる子供を育成しなければならない。
- ・明日香村が我が国の歴史や文化、自然を世界に発信しようとする動きの中で、世界の人々との交流を深め、世界に明日香の素晴らしさを発信するためには、児童・生徒の英語能力の向上が不可欠である。英語の活用能力を高めるために、英語活動や英語教育、国際交流等を通して、異文化に触れ、異文化を理解すること、日本や明日香の歴史や文化と比較して、互いの良さを学ぶこと、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成することなどが大切である。
- ・平成21年2月に明日香小学校・聖徳中学校とも、文部科学省の教育課程特例校の研究指定を受け、小学1～4年に英語活動（週1時間）、小学5～6年に外国語活動（週1時間）に英語活動（週1時間）をカリキュラムに入れ、指導を実施してきた。中学校においても、英会話科を1時間増設している。
- ・小学校に非常勤講師（英語）2名と中学校に外国語指導助手1名を配置し、英語教育の充実を図っているが、教員間の連携が英語教育推進の上で課題として見えてきた。
- ・平成24年度より、幼小中一貫教育推進を目指して、英語教育部会を組織し、英語教育の接続を研究している。
- ・平成26年度は、小中学校とも村費英語指導教員の年度途中での人事異動があり、研究の進め方について再確認をした。
小学校においては、学級担任と英語指導教員がTTの指導を行うためのカリキュラムや指導の在り方について研究を始めている。
中学校においては、英語の指導力の向上と改善を図るために、校内で授業研究会を開いている。

②研究仮説

一貫教育推進の取組を総合的に活かし、全教員が明日香に根ざした国際人の育成に向けて取り組み、英語教育の充実と評価点検を行うことによって、コミュニケーション力と自ら立ち向かうグローバルな人材を育成することができる。

③研究成果の評価方法

- ・幼稚園、小学校、中学校での英語活動・英語教育の実践記録を年度ごとにまとめ、配布する。
- ・小学6年で児童英検・中学2年でGTECを全員が受検し、客観的な評価を行う。
- ・「日韓の架け橋」や「明日香文化発信担い手育成事業 明日香の風」等の国際交流の機会を活かし、実際に体験することで自分の英語力やコミュニケーション力を点検・評価する。

(4) 研究開発型

	開始学年及び週当たり授業時数コマ			
	第一年次 (H26)	第二年次 (H27)	第三年次 (H28)	第四年次 (H29)
①小学校 外国語活動型	第1～6学年 1コマ	第1～2学年 1コマ	第1～2学年 1コマ	第1～2学年 1コマ
②小学校 教科型	第5～6学年 1コマ	第3～4学年 1コマ 第5～6学年 2コマ	第3～4学年 1コマ 第5～6学年 2コマ	第3～4学年 2コマ 第5～6学年 3コマ

(5) 研究計画

○第一年次～第四年次、校種別

【小学校】

第一年次（平成26年度）…小学1～6年生のカリキュラムと教材の作成

《低学年の重点》

- ・英語を聞く態度を育てる。
- ・英語の音やリズムに出会う。
- ・英語と日本語の違いに気づく。

《中学年の重点》

- ・英語を聞き、英語でコミュニケーションができる態度を作る。
- ・英語の音やリズムに出会い、楽しみながら覚えようとする。
- ・英語と日本語の音や文字の違いに気づき、言葉の豊かさを理解する。

《高学年の重点》

- ・英語を用いてコミュニケーションを図ることの大切さを知る。
- ・英語で、コミュニケーションができる態度を作る。
- ・英語の音やリズムに出会い、楽しみながら覚えようとする。

◎ 学級担任と英語指導教員が英語科でTTの授業を進められるように、年間指導計画やCAN-DOリストの作成、指導の在り方等について研究を進めた。

◎ 児童英検を受検し、英語力の分析と指導の在り方を分析している。

第二年次（平成27年度）…学級担任と英語指導教員によるTTの授業を進める。

- ・全国の先進的な研究事例を集めるとともに、1時間ごとの指導案を作成する。
- ・フォニックスの活用の在り方を研究する。
- ・文字指導の導入時期について研究する。
- ・県内の先進的な研究実践から学ぶ。
- ・地域を発信する内容の単元をカリキュラムに位置づけ、試行する。
- ・一貫教育実践発表会11月21日（土）において、授業公開し、取組を発表する。
- ・小学6年で児童英検を受検し（12月）、客観的な評価を行い、指導の在り方について研究する。
- ・英語科の授業研究会をもち、小中の英語教育の接続について研究する。

第三年次（平成28年度）…明日香に根ざした国際人の育成に向けて、どのような力を付け

なければならぬかを探る。

- ・コミュニケーション力の評価・検証
- ・郷土愛や発信力の評価・検証
- ・相手の考えを受け止め、自分の考えを説明する力の評価・検証（協調性・柔軟性）
- ・世界に羽ばたこうとする力の評価・検証（挑戦力・チャレンジ精神）

第四年次（平成 29 年度）…明日香に根ざした国際人の育成を目指した取組について、一貫教育の視点でまとめる。

○平成 27 年度の進捗状況・課題

- ・校内英語教育研究組織を整備し、毎週金曜日に研究会を開き、次週の指導について研究している。
- ・各学年において、昨年度に作成した年間指導計画に基づいて実践し、各学年の指導案の集約をしている。
- ・フォニックスの活用の在り方について、指導者を招いて研修会を開くとともに、パフォーマンス評価（発音）を専門家を招いて、2 回行った。
- ・コミュニケーション力を高めるために、国際交流（4 月 10 日オーストラリア ブロードビーチ小学校児童、7 月 10 日アメリカ教育視察団、10 月 29 日フランス・高校留学生）を各学年・各クラスで行った。
- ・11 月 21 日（土）に、明日香村一貫教育実践発表会を開催し、授業公開（4 つのクラス）と 3 年間の英語活動・英語教育の取組を発表した。
- ・毎時間の振り返りやパフォーマンス評価、抽出児の年間を通しての変容など、評価に関する研究を始めている。
- ・英語の授業の在り方について、県指導主事や奈教大准教授を招いての授業研究会を 3 回開くとともに、小中教員による指導案検討を通して、小中の接続について研究をしている。
- ・児童英検（シルバー）を 6 年全員が受検した。11 月 27 日
- ・英語教育推進リーダー中央研修に担当教諭が参加した。6 月・10 月
- ・1 年間の英語活動・英語教育の研究をまとめた冊子として、「明日香に根ざした“国際人”の育成」NO. 3 を発行する。

【中学校】

第一年次（平成 26 年度）…英会話科のカリキュラムと教材を作成した。（全学年）

- ・英語指導力向上事業に取り組んでいる高取国際高校、桜井高校、平城西中、葛小中学校の研究実践から学んだ。
- ・香川県直島小中学校の研究実践から学んだ。
- ・年間カリキュラムと教材について検討し、CAN-DO リストを作成した。
- ・中学 2 年において G T E C を 12 月に受検し、英語力の客観的な評価を行い、指導の在り方について研究している。
- ・2 学期より、英語科教員 2 名が、互いに授業公開を週 1 回程度行い、指導力向上に努めている。

第二年次（平成 27 年度）…理論研究や実態調査、先進校視察等により教育課程や指導の在り方を探る。

- ・中学校卒業時の姿を想定し、聖徳中学校の英語教育の方向を検討する。
- ・これまでのカリキュラムを、単元構成の類型とねらい、小中連携から見直し、その学習内容を「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の 4 つの言語活動の観点から、系統立て、一部試行する。
- ・地域を発する内容の単元をカリキュラムに位置づけ、試行する。
- ・ねらいに基づく評価の観点、各単元における評価基準を作成し、一部試行する。
- ・第 2 学年において、GTEC を受検させ、生徒の英語力を評価するとともに、指導の在り方について研究する。
- ・英語教員による授業研究会を継続するとともに、グローバル人材育成の観点から、校内に英語教育研究組織を作る。

第三年次（平成 28 年度）…コミュニケーション力や発信力、チャレンジ精神、協調性などを総合的に評価・検証する。

第四年次（平成 29 年度）…明日香に根ざした国際人の育成を目指した取組について、一貫教育の視点でまとめる。

○平成 27 年度の進捗状況・課題

- ・校内英語教育部会の活動を計画的に進めるために、毎週火曜日と木曜日に部会を開いている。
- ・1 年～3 年の英語授業において、オールイングリッシュの授業を行い、指導記録について、校内英語教育部会で検討している。
- ・英語授業公開のための指導案検討で、県教委指導主事、奈教大准教授を招いて 3 回研究会を開いた。
- ・小学校と中学校の英語教育の効果的な接続を目指して、小学校 6 年の指導案と中学校 1 年の指導案の検討を、小学校・中学校の教員で合同研究した。
- ・リーディングの教材（各学年・読み物教材）を準備し、帯活動で各自が自主的に選択して読み、読み取った内容を記録している。（オックスフォード リーディングツリー レベル 3・4・5）
- ・パフォーマンス評価を取り入れ、ヒヤリングやスピーキングのテストを学期に 1 回行っている。
- ・GTEC のテストを、1・2・3 の全学年で受検し、全体の傾向とともに、個人の習得状況や課題も明らかにしていきたい。昨年度は 2 年生が受検しているため、3 年の結果を基に、個人的に追跡したい。12 月 11 日実施
- ・桜井高校（3 年 40 名）と聖徳中学校（3 年 41 名）との交流授業を行う。（於 桜井高校 11 月 17 日）
- ・11 月 21 日（土）に、明日香村一貫教育実践発表会を開催し、授業公開（2 つのクラス）と 3 年間の英語活動・英語教育の取組を発表した。

- ・英語教育推進リーダー中央研修に担当教諭が参加した。5月・9月
- ・1年間の英語活動・英語教育の研究をまとめた冊子として、「明日香に根ざした“国際人”の育成」NO. 3を発行する。

(6) 評価計画

第一年次～第四年次、校種別

【小学校】

- ・年度ごとに、実践記録集を作成する。
- ・6年生において、児童英検を受検する。
- ・校内の英語教育推進委員会を月1回開き、英語教育の推進状況と学習到達度を点検する。

○平成27年度の進捗状況・課題

- ・児童英検（シルバー）を6年生全員が受検した。
- ・毎時間の振り返りカードを基に、英語授業の在り方を検証する。
- ・抽出児を基に、各学年において授業とCAN-DOリストの習得について、検証する。
- ・次年度はCAN-DOリストを子供にも分かる表現にし、「何ができ、何ができないか」を子供に自己評価させる。

【中学校】

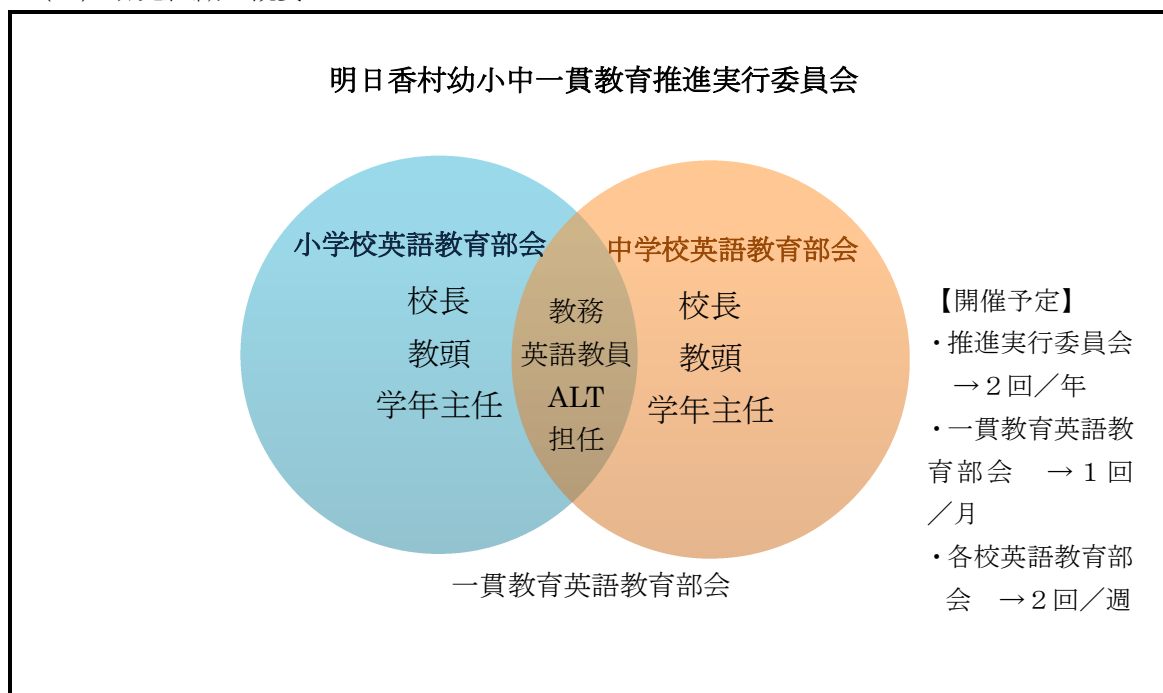
- ・年度ごとに、実践記録集を作成する。
- ・2年生において、GTECを受検する。
- ・国際交流を通じ、生徒の英語活用力を自己評価させる。
- ・運営指導委員会において、評価・指導を受ける

○平成27年度の進捗状況・課題

- ・CAN-DOリストを基に、「何ができ、何ができないか」を自己評価させる。
- ・パフォーマンス評価を取り入れ、ヒヤリングやスピーキングのテストを学期に1回行っている。
- ・GTECを全学年が受検することにより、全体の傾向を把握するとともに、生徒一人一人の習得状況や課題を把握することができる。12月11日実施

4. 研究組織

(1) 研究組織の概要



5. 年間事業計画

月	強化地域拠点の取組	運営指導委員会
4月	校内研究組織の設置（第1回） 平成27年度 研究計画作成 明日香小学校 国際交流事業 オーストラリア小学生 文科省 英語教育強化地域拠点事業説明会 4月27日	
5月	・第1回幼小中一貫教育推進実行委員会 5月11日 ・一貫教育英語教育部会（第1回） 5月12日 ・平成27年度 英語活動・英語教育グランドデザイン検討（小・中）	・県 英語教育強化地域拠点事業運営指導委員会 5月28日
6月	・一貫教育幼小中教職員合同研修会（授業研究会） 中学校で英語授業（2クラス）公開 6月10日 ・明日香小学校 英語活動・英語教育校内研修6月4日 ・一貫教育英語教育部会（第2回）6月9日 ・11月21日実践発表会での「英語教育部会の研究」について、提案原稿検討 ・明日香小学校 英語活動・英語教育校内研修6月29日	
7月	・第3回明日香村英語教育強化地域拠点事業推進委員会 7月6日 ・一貫教育英語教育部会（第3回）7月7日	

	<p>実践発表会 英語教育部会の提案原稿 検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明日香小学校 交際交流 アメリカ教育視察団 7月10日 ・聖徳中学校 英語教育研究の視点について ・奈良市英語教育拠点校の授業公開及び指導 7月13日 	
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・英語教育先進地視察（延期） ・一貫教育英語教育部会（第4回）8月3日 実践発表会 英語教育部会の提案原稿 検討 ・明日香小学校 校内研修 フォニックスの指導 8月4日 ・日韓相互交流「日韓の架け橋」実施 中学3年10名 韓国訪問・訪日団歓迎（韓国病気流行のため中止） ・明日香文化発信担い手育成事業「明日香の風」オース トラリア 中学2年10名派遣 8月17～26日 ・高取国際高校 英語指導力向上研修会 8月25日 ・明日香小学校 校内研修 アクティブラーニング 	
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・聖徳中学校 台湾ヨダバイリンガルスールとの交流 9月7日 ・一貫教育英語教育部会（第5回）9月8日 （一貫教育実践発表会での提案内容検討） ・聖徳中学校 英語教育研究会 9月14日 ・明日香村幼小中教職員合同研修会 明日香小 全クラ ス授業公開（2クラスで英語）9月16日 	
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・県教育委員会 聖徳中学校訪問 英語教育強化地域拠点授業について授業公開・説明 10月8日 ・第2回幼小中一貫教育推進実行委員会 10月19日 ・一貫教育英語教育部会（第6回）10月13日 実践発表会での討議の柱 ・県 英語教育拠点事業ワーキンググループ 10月20日 ・明日香小学校 英語授業研修会 10月22日 ・明日香小学校 英語授業研究会 10月27日 ・明日香小学校 国際交流 フランス 高校留学生（高 取高） 10月29日 	
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・一貫教育英語教育部会（第7回）授業研究に切替え ・英語教育授業研究 聖徳中 11月10日 ・桜井高校と聖徳中学校との授業交流会 3年生参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・県 英語教育強化地 域拠点事業運営指導 委員会

	11月17日 ・一貫教育実践発表会（小中とも授業公開・分科会発表） 11月21日 ・小学6年 児童英検実施 11月27日	11月12日
12月	・中学2年 GTEC実施 1・2・3年12月11日（全学年に変更） ・一貫教育英語教育部会（第8回）指導力向上研修会のため中止 ・英語教育強化地域拠点事業発表会 葛小学校 12月11日	
1月	・英語教育小中連携 英語科指導案（小6・中1）検討会 1月7日 ・一貫教育英語教育部会（第8回）1月12日 ・英語教育先進地視察 ・文科省英語教育強化地域拠点事業説明会 1月21日 ・英語教育強化地域拠点事業 授業公開 明日香小・聖徳中 1月22日 ・一貫教育全国サミットIN奈良 1月29～30日	
2月	・奈良県小学校英語教育研究発表会 葛小学校2月4日 ・英語教育強化地域拠点事業研究発表会 京都教育大附小・中 2月5日 ・第3回幼小中一貫教育推進実行委員会 2月15日 ・第4回明日香村英語教育強化地域拠点事業推進委員会 ・一貫教育英語教育部会（第9回）	
3月	・一貫教育幼小中教職員合同研修会 3月2日 ・英語教育実践記録集を作成・配布	
【その他の取組】 ・幼稚園から中学校まで、英語教育においても一貫教育を推進する。		